

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1(1)	○運営理念に準ずる目標の作成 各ユニット毎に運営理念に準ずるものを作成して目標を明確にする。	各職員がより具体的に行動目標となるスローガンを各階毎に作成し、行動指針とする。	BS法など過去の研修で習得した技法を使って各階毎に行動指針となるスローガンを作成する。	12ヶ月
2	6(5)	○身体拘束の廃止に向けた取り組み 各ユニット毎に身体拘束廃止に向けた取り組みをするための勉強会を実施する。また、ヒヤリハット報告を基に検討していることをアピールできるようにすべきである。	・身体拘束の廃止に向けた取り組みについて、定期的に勉強会を開き解決を図っていく。 ・ヒヤリハット報告に基づいた、原因の分析、対応策について随時検討していく。	・1ヶ月に一度、各階の代表メンバーが集まり、身体拘束についての勉強会を行う。それを、各階に紹介して身体拘束の改善を目指していく。 ・ヒヤリハット報告に基づいた問題点の抽出、再発防止策の立案会議を定期的に行う。	12ヶ月
3	2(2)	○事業所と地域とのつきあい 自治会長にもっと働きかけ、ホームが地域に存在する意義を地域にアピールすることで、地域住民の認知症の理解に貢献すべきである。	自治会長と連絡を密にし、地域住民にホームの存在を十分理解してもらうように、行事を開催するなどをして、地域住民との交流を図り認知症の理解に貢献する。	例年行われている子供七夕や、樽みこしに来て頂いたり、鶴形のささら踊り演舞など依頼したり、さらには歌の会などを催して地域住民との交流を深め、認知症理解の一助とする。	12ヶ月
4	4(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 生活保護の入居者がおられるのであれば、能代市の生活保護担当者にも毎回でなくてもいいので、運営推進会議に参加してもらい、まつ風での生活状況を把握してもらうようにすればいいのではないかと。	生活保護担当者に運営推進会議への参加をお願いし、生活保護の入居者がおられる当施設での生活状況を把握してもらうようにする。	年2回、1月と6月に運営推進会議への参加を依頼し、当施設での生活状況を把握して頂く。	6ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。